

次世代創傷用洗浄器開発を目指した
株式会社ファンペップとの共同開発契約締結に関するお知らせ

当社は、株式会社ファンペップ（大阪府茨木市彩都あさぎ 7 丁目 7 番 15 号、代表取締役社長：三好 稔美、東証マザーズ上場 以下「ファンペップ」）との間で、次世代の創傷用洗浄器開発について共同開発契約を締結することを決議いたしましたのでお知らせします。

1. 本共同開発の目的及び内容

ファンペップは、大阪大学大学院医学系研究科の研究成果に基づき、機能性ペプチドの実用化に向けた研究開発に取り組んでいる大学発ベンチャー企業です。主力の医薬品分野においては皮膚潰瘍治療薬や乾癬治療薬について国内外で臨床開発を進めておりますが、これに加えて、その他の化粧品やヘルスケア分野においては事業会社との提携によって機能性ペプチドの幅広い分野での実用化を図っております。

当社は、ファインバブル技術のリーディングカンパニーとして、微細な気泡ファインバブル（ISO国際標準規格における気泡径 $100\text{ }\mu\text{m}$ 未満の気泡： $1\text{ }\mu\text{m} \sim 100\text{ }\mu\text{m}$ 未満をマイクロバブル・ $1\text{ }\mu\text{m}$ 未満をウルトラファインバブルとする）を活用した製品群において「ミラブル」に代表される洗浄力や肌への浸透性に関する様々なノウハウを有しています。当社は、このノウハウを有効に生かすため、一般消費者市場への製品展開のみならず、農業分野や工業分野または食品分野など様々な市場に向けて研究開発を行なっており、医療分野に関しても、ファインバブルの適合性が高い分野として数々の取り組みを実施しています。

我が国では高齢化社会を迎え、寝たきりの高齢者に発生することが多い褥瘡等の皮膚潰瘍の治療の重要性が増しております。皮膚潰瘍治療においては、創面の細菌や壊死組織等を取り除いて創傷治癒を促進するため、創部を十分に洗浄して清潔に保つことが重要です。しかしながら、感染の危険性のある場合や抗生素耐性菌に感染している場合などは、既存の治療薬を使用できず、潰瘍治療が困難なケースが多くあります。そのような場合には、まず傷口の感染コントロールが重要ですが、既存の方法では十分行えないことがあります。新規治療が必要とされています。今回ファンペップと共同開発する創傷用洗浄器はこのような感染コントロールが困難な患者様に対する新たな治療法を提供できるものと考えております。

本共同開発では、当社のファインバブル技術を用いた創傷用洗浄器に、ファンペップの抗菌作

用を示す機能性ペプチドを組み合わせて用いることにより、洗浄力の高い新規創傷用洗浄器の開発を行います。本医療機器の開発により、褥瘡や糖尿病性潰瘍などの皮膚潰瘍の早期治癒が可能になることを期待しております。当社では、今後も医療分野での開発を継続して行い、活動を通じて社会に貢献出来るよう取り組んで参ります。

2. 当社によるファンペップ株式の取得

当社は、本件に関連して、ファンペップ既存株主からファンペップ発行済株式を市場外の相対取引を通じて譲り受ける予定です（最大約 50 万株（2022 年 1 月末時点の当社発行済株式総数に対する割合： 2 ~ 3 %））。